

**9月の防災月間に合わせ「震災対策を学ぼう！安全と安心のヒミツ探検ツアー」を実施
『ヒルズ街育プロジェクト』オンラインで初開催
「実験教材」や「ヒミツの備蓄キット」を使って自宅で震災対策について学ぶ**

森ビル株式会社は、9月の防災月間に合わせて、2020年9月13日(日)に『ヒルズ街育プロジェクト』初となるオンラインプログラム「震災対策を学ぼう！安全と安心のヒミツ探検ツアー」を開催します。社会全体が新しい生活様式へと移行し、従来型のワークショップの開催が難しい中、オンライン授業で街を挙げた震災対策について解説しつつ、事前に自宅に送付される「実験教材」や「ヒミツの備蓄キット」を使って、安全・安心な「街」や「建物」、「日々の備え」について楽しく学んでいきます。また、震災対策クイズやチャットによる質問コーナーなど、オンラインならではの双方向コミュニケーションを取り入れることで、従来の対面式のプログラムとは一味違う、新たな『ヒルズ街育プロジェクト』をご提供します。



『ヒルズ街育プロジェクト』 オンラインプログラム概要

- ツアー名 : 「震災対策を学ぼう！安全と安心のヒミツ探検ツアー」
- 日 時 : 9月13日(日) 13:00~14:00、15:00~16:00
- 対 象 : 小学校5、6年生のお子様とその保護者
- 募集人数 : 各回20組
- 申込方法 : ヒルズ街育プロジェクトホームページより申込 <https://www.mori.co.jp/machiiku/>
- 参加費 : 無料

ヒルズ街育プロジェクトとは

創業から約60年にわたり地域の皆さまとともに街づくりを推進してきた森ビルが、街づくりの豊富なノウハウを、未来を担う子どもたちに伝えるとともに、楽しく学びながら、次世代の都市のあり方を考える機会として実施している親子向けプログラムです。六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズ、愛宕グリーンヒルズなど、本物の“街”を“生きた教材”として活用し、当社が街づくりで大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマにしたプログラムを実施することで、街づくりを考えるきっかけを提供しています。

2007年の開催以降、延べ約15,000名の方々にご参加いただきました。一般公募によるプログラムの実施だけでなく、近隣小学校の授業の一環として同プログラムをご活用いただくことで、地域コミュニティにおける子どもの学習機会の創出にも貢献しています。

森ビルは、今後も引き続き、次代の都市づくりを担う子どもたちと共に学びながら、都市の未来、東京の未来を切り拓いてまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 佐々木

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

<「震災対策を学ぼう！安全と安心のヒミツ探検ツアー」詳細>

レクチャーとワークショップで構成される、約 1 時間のオンラインプログラム。参加者の自宅に、地震の揺れを学ぶ「実験教材『紙ぶるる』」と、六本木ヒルズに備蓄されている震災備品の中からチョイスした「ヒミツの備蓄キット」を事前に送付することで、オンラインプログラムでありながら、実際に教材を手にとり、体験を通じた楽しい学びをご提供します。プログラムを通じて様々なクイズを出題したり、チャットによる質問コーナーを設けたりすることで、オンラインならではの双方向コミュニケーションを積極的に取り入れています。

■レクチャー：安全・安心な「街」のヒミツを学ぼう

地震が起きた際に想定される被害や、地震に強い街づくりについて、模型を使いながらわかりやすく解説します。自分が住んでいる街のことを想像しながら、安全・安心な街について親子で一緒に考えます。



■ワークショップ①：安全・安心な「建物」のヒミツを学ぼう

「実験教材『紙ぶるる』」を使って、建物を自分の手で揺らしながら、地震の揺れと建物の高さとの関係や、地震に強い建物を建てるための工夫などについて学びます。

■ワークショップ②：安全・安心に過ごすための「備え」のヒミツを学ぼう

六本木ヒルズに備蓄している様々な備蓄品を詰め合わせた「ヒミツの備蓄キット」を使って、備えておくべき備蓄品の種類や使い方などについて学びます。また、六本木ヒルズの取り組みとして、街全体で行う「震災訓練」や災害時でも電気を止めない「自家発電施設」、24 時間人の目で街を守る「防災センター」などについて、映像を見ながら学んでいきます。



◎災害時に強い”逃げ込める街”六本木ヒルズ

森ビルは、「逃げ出す街から逃げ込める街へ」をコンセプトに、ハード・ソフト両面で、災害に強く、周辺地域の防災拠点となる街づくりを進めています。

特に、六本木ヒルズでは、建物自体を地震などの災害に強くするために、法定を上回る独自の耐震基準を採用するほか、3重のバックアップにより災害時にも安定した電気供給を可能とするエネルギープラントも設置。

さらに、地区内には非常時の飲用水や、トイレ洗浄水および消防用水等を確保する災害用井戸や、非常用の水や食料を 10 万食分備蓄する備蓄倉庫などを備えています。また、港区と「災害発生時における帰宅困難者の受入れ等に関する協力協定」を締結し、約 5000 人の帰宅困難者を受け入れる体制を整備し、地域の防災拠点としての役割を担っています。



超高層タワーには高度な制振装置「オイルダンパー」を 356 台設置



独自のエネルギープラントを備え、災害時でも安定的な電力供給が可能



発災時の現場対応力向上の為継続的な防災人員育成に取り組む